主タイトル（14pt）  
‐副タイトル‐

English (or the other Language) Main Title　(14pt)  
‐ English (or the other Language) Subtitle ‐

筆頭著者の所属・著者名（10.5pt）

共同著者の所属・著者名

キーワード：（10.5pt）国際戦略推進機構、国際交流

外国語キーワード：（10.5pt）International Strategy Organization, International Relations

要旨  
横浜国立大学は、現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」を、建学からの歴史の中で培われた精神として掲げ、一人一人の在り方を尊重し合う「多様性」を重んじ、世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねることを宣言する。（400字以内）

英語要旨（または他の外国語要旨）  
（150ワード程度、中国語の場合は400字）

# 1．　はじめに[[1]](#footnote-1),[[2]](#footnote-2)

「開国の地」横浜という歴史的背景や、国際港湾都市・横浜という地理的特性を生かし、本学は、海外の大学・研究機関と連携、国際学術交流を積極的に展開、多くの留学生を受け入れているとともに、教職員や学生を積極的に海外へ派遣している。

# 2．　横浜国立大学国際戦略

卓越した「実践的学術の拠点」を形成し、それを世界中どこからも見えるようにすることによって、世界に開かれた大学を実現する。

1. 学内資源を有効に活用し、メリハリ型・重点型の国際交流活動を展開する国際交流を網羅型からメリハリ・重点型へと転換し、限りある学内資源を有効活用することによって最大限の効果をあげることを目指すとともに、質の高い活動を展開する[[3]](#footnote-3)
2. キャンパスの国際化を図るとともに、キャンパスで生まれた国際的ネットワークを大切に育んでいく国際通用性があり、異文化に対しても寛容なキャンパスづくりに努め、学内を国際交流の拠点とするとともに、国内外の本学出身者交流を支援するなどキャンパスで生まれた国際的ネットワークを大切に育んでいく

上記のように、横浜国立大学では、「卓越した「実践的学術の国際拠点」を形成し、それを世界中どこからも見えるようにすることによって、世界に開かれた大学を実現する」ことを目的に国際戦略を策定した。

## 2-1.　国際戦略推進機構

企画推進部門は、本学の国際戦略に係る行動計画及び事業計画の企画立案・実施・総合調整に当たるほか、外国大学等との学術交流協定に関する事務、教職員の海外派遣・海外研修に関する事務、国際連携を伴う助成事業等に関する事務を処理している。また、留学生の戦略的受入れの推進も重要な任務であり、短期交換留学に関する事務を処理するほか、YCCSをはじめとする全学国際教育プログラムに関する業務も担当している。

基盤教育部門は、英語教育部、日本語教育部、初修外国語教育部により編成され、主にこれら語学教育の全学的な総合調整、行動計画やその実施等を通じて、本学のグローバル教育を推進している。本学の国際戦略を達成するために、世界で活躍できる優れた資質を持つ学生の基盤となる語学運用能力を一層高め、グローバル人材の育成に貢献する。

### 2-1-1.　機構長の挨拶

ご承知の通り、大学の国際的環境は日に日に変化し、特にグローバル理工系人材の養成への要求の高まりには驚くものがある。この4月の発足以来、国際的なプロジェクトや全学的グローバル教育を担当する「国際企画部門」とグロ－バル化の基盤となるコミュニケーション・語学を担当する「基盤教育部門」を並列した軸とし、留学生の受入・派遣に係る総合窓口としての「留学生センター」を統合して活動を開始している。

### 2-1-2.　国際戦略

さらなる世界に開かれた大学への実現を目指し、2008年2月に大学の国際化に関する将来計画「横浜国立大学国際戦略」を取りまとめ、2009年4月国際戦略コーディネーターを配置し「国際戦略推進室」が本格的に始動した。

# 3．　本学の課外活動団体

横浜国立大学では課外活動団体として、大学に団体届を提出している団体(届出団体)が体育会系サークル41団体、文化系サークル47団体の計88団体ある（2014年3月現在）。また、その他多数の同好会等が活発に活動している。以下に、体育会系課外活動団体の応援に行きたい方のために、一部表にして掲載しておく。

表1　体育会部活リーグ戦情報一覧

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 部活名称 | リーグ戦時期 | ホームページ・ブログ |
| 野球 | 4-6月、9-10月、ほぼ毎週 | ynu-baseballclub.cocolog-nifty.com |
| サッカー | 5-7月、9-10月、毎週 | ynufoot2013-2014.jimdo.com |
| アメフト | 9-11月、ほぼ隔週 | mastiffs.jp |
| 女子ラクロス | 8月-10月、ほぼ隔週 | ameblo.jp/ynulax-girls |
| ハンドボール | 4-5月、毎週 | ynu-handball.jimdo.com |
| テニス | 8月下旬-9月中旬、週2回 | ynut.in-the-future.com |
| 卓球 | 5月、9月、土日 | ameblo.jp/ynuttcblog |

## 3-1.　本学の1部所属団体

11月10日、調布市アミノバイタルフィールドにて、関東学生アメリカンフットボールⅠ部リーグBブロック最終戦、対国士舘大学戦が行われ、34対6で国士舘大に快勝。2004年以来のⅠ部リーグ3勝という結果を手にした。名だたる私立大学に交じっての3勝は、「近年稀に見る快挙」と賞賛される成績である。簡単な規則を知ると、観戦が楽しくなるので、部員やマネージャーに聞いてみよう。

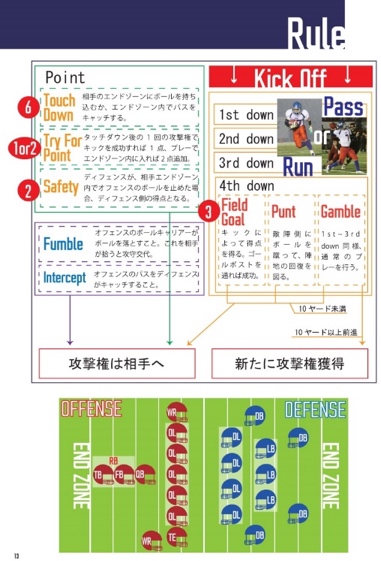


図1　アメリカンフットボール規則（マスティフス2012より引用）

# 4．　国際戦略の行動戦略

本行動戦略が視野に入れている期間は、次期中期目標期間（2010～2015年度）終了時である2015年度末までとする。なお、今後、本学の次期中期目標・中期計画の検討状況を踏まえ、必要に応じ改訂する。

国際人材育成戦略

1. 教育内容及び教育水準の国際化
2. 世界で活躍する人材の育成

Bの目標を達成するために、世界中に学生を派遣している。

1. 留学体験記　ユタ州立大学(アメリカ)
2. 山田　太郎　経営学部国際経営学科4年  
   まず授業についてですが、始めの学期は英語の授業を中心に履修し、後半の学期では経済学や社会学のほかに音楽やまた興味のあった中国語の勉強をしました。

横浜国立大学では、以下の組織で国際戦略を推進している。

* 国際戦略会議
* 国際戦略推進機構
* 国際戦略推進機構運営委員会

Oxford辞典によると、国際化の定義は以下の引用の通りである。

The process by which businesses or other organizations develop international influence or start operating on an international scale:

横浜国立大学の学長の言葉を以下に引用する。

「横浜国立大学国際戦略」の基本戦略にも挙げられている「世界を舞台に活躍できる人材の育成」「世界に開かれた教育研究活動」に関しては、留学生交流支援事業（2011年度は、SS・SV/JASSO事業に400名以上参加）、YNU海外派遣留学生特別奨励金、国際交流科目なども後押しとなり、学生の海外派遣・海外からの学生受け入れの種類・数が飛躍的に増加しています。

世界を舞台に活躍できるコミュニケーション能力を持ち、異文化を理解する人材を育成するとともに、留学生・研究者の受け入れ・派遣を促進し、教育と研究を通じた諸外国との交流の拡大を図る。

# 5．　参考文献の例について

【編集上の注意】本文中で言及した文献は、日本語文献（筆頭著者の姓の五十音順）、外国語文献（筆頭著者の姓のアルファベット順）の順で必ず参考文献一覧に記載すること。また、本文中で言及されていない文献は、参考一覧に記載しない。

日本語の参考文献の書式について説明する[[4]](#footnote-4)。

①本文中で参考文献を引用する場合は、著者姓と発行年をつけること。

例）譚・仁科（2003）によれば～

②著者が3人以上の場合には初出の場合から筆頭著者のあとに「ほか」（英文の場合はet al.）をつける。

例）宇佐美ほか（2009）に基づき、議論を行う。

英文の参考文献の書式は全てAPAに則って、行うようにすること[[5]](#footnote-5)。

なお、自己の既発表論文等の引用にあたっては、「拙稿」「拙著」等による表示は避け、他の参考文献と同様に著者の姓を用いること。

付記

編集委員会の委員の方々に深く感謝するものである。

注

1. 脚注を基本とする。

脚注は、入力する場所で、wordメニューの「参考資料」>「脚注の挿入」で数字と脚注が自動的に挿入できる。後注にて、改行する場合は、「参考資料」>「文末脚注の挿入」を使用する。

1. 後注を使用しない場合は、この「注」以下の段落を削除する。

参考文献

（1）宇佐美洋, 森篤嗣, 広瀬和佳子, 吉田さち（2009）「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響―文脈の中での意味推測を妨げる要因とは―」『日本語教育』140, 48-58.

（2）佐野正之（2005）『はじめてのアクション・リサーチ―英語の授業を改善するために』大修館書店.

（3）譚芸穎, 仁科喜久子（2003）「中国人日本語学習者「のだ」の習得状況に対する考察―アンケート調査の結果から―」『日本語教育方法研究会誌』10(2), 12-13.

（4）横浜国立大学マスティフス「ルール」http://mastiffs.jp/about-football-rule（2014年9月17日）

（5）Chomsky, N. (1986). *Knowledge of Language: Its Nature, Origin and Use*. Praeger.

（6）Rizzi, L. (1997). The fine structure of the left periphery. In L. Haegeman (Ed.), *Elements of Grammar: Handbook in Generative Syntax*, 281-337. Kluwer Academic Press.

1. 2014年9月16日に横浜国立大学ホームページ (www.ynu.ac.jp) から掲載。以下、国際戦略推進機構のページから抜粋。1章から4章までは、ダミー文章。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 【執筆上の注意】見出しは章・節レベル（大、中、小）に応じて、特別な改行間隔（前後で間隔を開ける）が割り付けられているので、改変しないこと。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 【執筆上の注意】番号書式にも、特別な改行間隔（番号書式段落の前後で間隔を開けるが、同じスタイルの時が連続するときは間隔を開けない）が割り付けられているので、改変しないこと。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 日本語教育学会（https://www.nkg.or.jp/）の学会誌『日本語教育部』の「執筆の手引き」を参考にすること。https://www.nkg.or.jp/gakkaishi/.assets/toko\_tebiki.pdf [↑](#footnote-ref-4)
5. APA 7th version（https://apastyle.apa.org/）に準拠すること。 [↑](#footnote-ref-5)